

平成 26 年度  
 発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業  
 （発達障害理解推進拠点事業）  
 成果報告書（概要版）

実施機関名（白鷹町教育委員会）

1. テーマ

「発達障がいのある児童への支援のあり方」「実態把握と支援体制の構築」「ユニバーサルデザインの視点を大切にしたい授業づくり」について

2. 問題意識・提案背景

本町には現在、小学校 5 校、中学校 2 校が設置されているが、統合により平成 27 年度に小学校 4 校、中学校 1 校となる。また、本町の、発達障がいをもつ、または可能性のある児童生徒を含めると全体の 6.7%程度になる。今後小中学校の教職員が、特別支援教育への理解を深め、発達障がいをもつ児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援について、共通理解に基づいた適切な取り組みをしていく必要がある。

保育園は、現在 4 保育園が設置されており、早期の段階から発達障がいをもつ園児、保護者への適切な就学支援を行うように努めているが、障がいの状態等に応じた対応については課題を抱えている。一人一人の子どもにとって適切な状況での保育、小学校就学に向けた保護者への理解も進めていく必要がある。保育園、小学校、中学校の縦のつながりも同時に進め、保育士、教職員、保護者への理解・啓発を図ることにより、インクルーシブ教育システムの構築をめざしていきたいと考えた。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
白鷹町	<small>しらたかちょうりつあらとしょうがっこう</small> 白鷹町立荒砥小学校

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
白鷹町	<small>しらたかちょうりつこぐわしょうがっこう</small> 白鷹町立蚕桑小学校
白鷹町	<small>しらたかちょうりつあゆかいしょうがっこう</small> 白鷹町立鮎貝小学校
白鷹町	<small>しらたかちょうりつたかやましょうがっこう</small> 白鷹町立鷹山小学校
白鷹町	<small>しらたかちょうりつひがしねしょうがっこう</small> 白鷹町立東根小学校
白鷹町	<small>しらたかちょうりつにしちゅうがっこう</small> 白鷹町立西中学校
白鷹町	<small>しらたかちょうりつひがしちゅうがっこう</small> 白鷹町立東中学校

#### 4. 拠点校における取組概要

##### 1. 拠点校における中核教員を対象にした研修

- (1) 「特別支援教育について」「アセスメントの重要性について」「ユニバーサルな支援について」「学校全体で取り組む特別支援教育への提案について」の研修を実施。実態把握の重要性及び校内支援体制構築のためのポイントを学んだ。

##### 2. 拠点校における全教職員を対象にした研修

- (1) 「特別支援教育について」「発達障がいとは何か」「具体的な支援の方法について」「ユニバーサルな支援について」の研修を実施。発達障がいの理解を深めるとともに、共感的な姿勢での支援の重要性について学んだ。
- (2) 担任と本人が困り感を抱えている児童を対象とし、1～4学年及び特別支援学級のスクリーニング、コンサルテーションを実施。コンサルテーションには、担任、校長、教頭、特別支援教育コーディネーターが参加し、校内支援体制に向けるようにした。

##### 3. 授業づくりをとおした研修

- (1) 国語科のユニバーサルデザインを通した授業づくりを通し、授業づくりで大切なこと（授業の構成、発問や指示、板書やノート指導、教材教具の工夫等）、学級づくりで大切なこと（教室環境、学習や生活のきまり、関係づくり等）を学んだ。

##### 4. 研修プログラムの体系化に向けた取組

- (1) 研修でめざすことを年度始めの各小中学校の職員会議において、全教職員で共通理解する場を設けた。
- (2) 研修時期、内容について学校教育活動の年間計画に位置づけた。
- (3) 研修の内容については、職務に応じた内容となるように意識した。
- (4) 保護者及び地域住民に、本事業の取組や研修会等の実施について、積極的に知らせた。
- (5) 平成27年度は、研修プログラムの改善を進めながら、教職員の早期支援の専門性の向上を図る。また、本事業終了後も本町ならではの研修プログラムが継続できるような体系を整えていく。

## 5. 主な成果

1. 特別支援教育の変遷，アセスメントの重要性，ユニバーサルな支援，具体的な支援等についての内容であり，拠点校の教職員の発達障がいに対する理解が深まったと言える。評価として以下のような成果が見られる。
  - ・「研修をとおして発達障がいへの理解が進んだといえるか」の割合  
とても進んだ・進んだと答えた教職員の割合；100%
  - ・「研修の内容は自学級の子どもの支援に役立つと思うか」の割合  
とても役に立つ・役に立つと答えた教職員の割合；100%
2. 事例をもとにワークショップを行い，理由や背景をそれぞれ考え，様々な考えを出し合ったことで，一人の子どもにも，多角的な見方で接すること，複数体制で支援にあたることの大切さを学ぶことができた。
3. スクリーニングとコンサルテーション実施後の校内特別支援教育委員会において，支援を要する児童と支援内容を学校全体で共有した。評価として以下のような成果が見られる。
  - ・「コンサルテーションでの指導・助言は，個に応じた支援に役に立つと思うか」の割合  
とても役に立つ・役に立つと答えた教職員の割合；100%
  - ・本研修会がきっかけとなり，保護者の理解を得て医療機関を受診した通常学級の児童数  
28人中5名（受診率；17.8%うち1名は平成27年度より知的障がい学級入級）
4. 拠点校では，学校研究の視点に「ユニバーサルデザインを取り入れた授業の工夫」を設定し，学習指導案の中でも，単元計画及び本時の指導に記載して授業に取り組んだ。学校評価から以下のような成果が見られ，ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを通して，教師と児童の意識が高まってきたといえる。
  - ・「学習の興味・関心を高める工夫をした授業づくりを進めたか」の項目  
1学期評価；2.7ポイント → 2学期評価；2.75ポイント（0.05↑）
  - ・「学び合い，考えを深めることができる子どもは育ちましたか」の項目  
1学期評価；2.2ポイント → 2学期評価；2.65ポイント（0.45↑）
  - ・「書いたり友達の話の聞いたりして，自分の考えをもつことができたか」の項目（できたと答えた児童の割合）  
1学期評価；80% → 2学期評価；85%（5%↑）
  - ・「授業中，自分の考えを進んで発表することができたか」の項目（できたと答えた児童の割合）  
1学期評価；70% → 2学期評価；74%（4%↑）

## 6. 今後の課題と対応

1. 以下の学校評価アンケート結果から，特別支援教育の視点を大切にして教育活動が進められてきたと言える。しかし，自由記述欄に「特別支援教育コーディネーターの積極的な関わりによる改善に向けたコーディネートの必要性」「教職員のさらなる共通意識の必要性」が記載されている。特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を計画的に進める。

- ・「適切な教育支援をすすめる等，特別支援教育の視点を大切にする学校創りはすすみましたか」の項目  
1学期評価；2.9ポイント → 2学期評価；3.0ポイント（0.1↑）
  - ・「特別支援教育は意図的・計画的にすすみましたか」の項目  
1学期評価；2.7ポイント → 2学期評価；2.8ポイント（0.1↑）
2. ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについては，山形県教育センターが発行している「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりハンドブック」をさらに活用し，児童生徒の学習意欲の向上につなげていく。
  3. 発達障がいへの早期支援の観点からも，保育士との連携は重要である。できるだけ多くの保育士が参加できるような研修体制を検討していく。
  4. 平成27年度は，白鷹町PTA連合会と連携し，より多くの保護者を対象にしたセミナーを開催し，発達障がいへの理解を深められる内容にすることを決定している。

## 7. 問い合わせ先

組織名：

- |             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| (1) 担当部署    | 白鷹町教育委員会学校教育係                         |
| (2) 所在地     | 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833                    |
| (3) 電話番号    | 0238-85-6144                          |
| (4) FAX 番号  | 0238-85-2183                          |
| (5) メールアドレス | t-ebina@so.town.shirataka.yamagata.jp |